ブエノスアイレス日本人学校における学校経営

前ブエノスアイレス日本人学校　校長
茨城県常陸大宮市立緒川小学校　校長　山　口　和　則

キーワード：在外教育施設，ブエノスアイレス，学校経営

１．はじめに

本校は，日本から最も遠いアルゼンチン共和国の首都ブエノスアイレス市ベルグラーノ地区に立地する。巨木の街路樹が生い茂る緑豊かで閑静な住宅街の一角にあり，子どもたちが学ぶのに大変恵まれた環境にある。創立44年を超える古い歴史とすばらしい伝統の学校である。学校には芝生のグランド，全天候型の多目的コート，プール等が備わっており，その中で，子どもたちはのびのびと元気に勉学に励んでいる。本校で学ぶ子どもたちは無限の能力や可能性を秘めている。子どもたちのもっているそれぞれのよさを十分に引き出すために，本校では児童生徒と教職員が家庭的な雰囲気の中で明るく元気に教育活動に取り組んでいる。

２．学校の実態

児童生徒の実態	保護者の願い
・素直で明るく，課題や役割に前向きに取り組んでいる ・学年の枠を超えて仲良く協力して生活している ・自分の進路に対して，見通しをもち自己実現に向けて努力している	・学力をつけて欲しい （わかりやすい授業　補充深化の学習） ・豊かな心を育てて欲しい ・健康増進と体力をつけて欲しい ・進路指導を充実して欲しい ・学校の様子を知らせて欲しい ・子どもの安全の確保をお願いしたい

３．学校経営について

(1) 学校教育目標

「自分とその環境のよさを知り　ゆめを育て　進んで行動できる児童生徒の育成」

(2) 本年度の取り組みの重点

① 基礎基本の確かな定着と確かな学力の向上（ゆめを育てる）

ア 少人数を生かした授業研究

イ 裁量の時間を活用した補充，深化の学習

ウ 各種検定の積極的な推進，進路指導の充実

エ 読書指導の充実（図書室の利用促進・朝読書）

② 現地理解教育の推進（環境のよさを知る）

ア 現地校との継続的交流，社会体験の充実

イ 現地理解読本の改訂（PAMPA３の作成）

ウ 総合的な学習の時間の活用

エ 現地語会話教育の推進（指導計画の改善）

オ 外部講師の積極的活用

③ 学習環境の整備と施設設備の充実

ア 教材教具の整備充実

イ 校舎内外の環境整備と美化（掲示を含む）

ウ 進んで清掃や作業に取り組む児童生徒の育成

4．実践について

① 基礎基本の確かな定着と確かな学力の向上

ア 授業実践

本校児童は，挨拶や学習規律は身に付いており，何事にも真面目に取り組むことはできるが，自分の思いを相手に分かりやすく話すことについては弱い面が見られる。特に，根拠や筋道を明確にして表現する力や習得した知識・技能を応用する力，物事を多様な観点から観察する力は十分とは言えない。

本年度は，研究主題を『自分の考えをもち，豊かに表現する子どもの育成』と掲げ，「筋道を立てて考えを表現するための指導を工夫することにより，子どもたちの思考力や表現力を育てよう」という共通した目的と意識をもって授業改善に取り組んだ。

学習過程を「つかむ」「向かう」「深める」「振り返る」とし，問題解決の場面において，考える活動，表現する活動を通して，考え方のよさに気づきより確かな知識が習得できるように授業づくりを重ねてきた。特に，「つかむ」「向かう」では，自分の考えをもつために課題提示の工夫やウォーミングアップ問題，考えを共有するための相談活動等々の支援を，「深める」「振り返る」では，子どもの思考の流れを大切にした意見交換の場の確保を図ってきた。

イ 教育課程の見直し

中学部の教育課程を変更し，45分授業週33時間を実施した。それまでの教育課程は50分授業週28時間で，年間980時間であったが，変更したことにより年間で1155時間に増加することになる。45分授業を実施するに至った背景には，受験への対応，授業と行事等の準備に係る時間の明確な仕分けがある。45分授業週33時間を採用することで，増加時間分を裁量の時間として確保した。裁量の時間は，学習の補充，深化の時間，行事の準備等に係る時間を中心として割り振り，計画的な運用を図った。前年度の教育課程と比べても，各教科で標準時数は確保されており，また7時限目の終了時刻は，休み時間を調整し従来と変わらずに編成することができた。

② 現地理解教育の推進

ア 交流学習

1）目　的

・アルゼンチンの子どもたちと音楽やスポーツなどの文化交流を通してふれあう。

・スペイン語，英語を使う機会をもてるようにする。

2）交流相手校

◇イングリッシュ校（私立校　英語による交流も可能　学校から徒歩2分）

・1年～7年まであり，特定のクラスと年間3～4回，各1時間程度の交流を行う。

・学年ごとのテーマを設けて交流を行う。

・交流の内容を記録，まとめたものを講堂に掲示，データはサーバーに蓄積する。

・イングリッシュ校の学校行事に参加する。

【交流計画】○参加学年　全 学 年　　○交流期間　5月から11月

○交流計画　1・2年「なかよくあそぼう」　3回実施

3・4年「スポーツ・日本の遊び」3回実施

5・6年「日本の文化・伝統」　3回実施

中 学 部「日本文化について」　　2回実施

◇日亜学院（日系私立校　9割がアルゼンチン人　車で20分）

・長期休業日の時期の違いを利用して，相互に体験入学を行う。

・相手校の参加学年の日課に合わせ，終日1週間の授業に参加する。

【交流計画】○参加学年　交流希望者　　○交流時期　5月，2月，3月

○交流計画　運 動 会…5月実施　交流種目に招待

体験入学…2月実施　日亜学院より本校へ参加

3月実施　本校より日亜学院へ参加

イ 現地理解読本の改訂

本校学校教育目標の中にある「自分とその環境のよさを知り」とは，文化や習慣の違いを肯定的に受け止めることを通して，自分のこれからの生き方に積極的に生かそうとする資質や態度を育てることを目指している。児童生徒にとって，当地で見聞きし，体験している日々の生活そのものが，豊かな国際性を養う助けになっている。

しかし，日常生活の安全上，自分の足で歩き見聞を広めるという状況にはない。日々の生活からだけでは十分に当地を理解することはできないのが現状である。本校では，これまで多くの現地理解学習における実践を積み上げてきた。どれも児童生徒たちの日常生活では，なかなか経験することのできない内容を扱い，児童生徒がアルゼンチンの文化や習慣の違いを発見することを目指したものである。本校教職員が，教育的効果の高い学習素材を，自分の足で探し，自分の目で見たり，現地の人の話を聞いたりした様々な体験から，どのように子どもたちに伝え，学びを創造していくかを検討の上作成したものである。

③ 学習環境の整備と施設設備の充実

ア 教材教具の整備充実

新学習指導要領の実施に向けて，施設環境を整えることは大切である。それは児童生徒にとっても学習環境の充実に繋がる。計画については2年計画で準備を進めてきた。本年度は備品台帳に基づき整理を行った。

施設環境の整備にあたって次の3点に配慮した。

・管理のしやすさ・新教育課程に向けた必要備品の確認・利用しやすい環境

⑴ 備品台帳の整理

昨年度，備品の整理に向けて備品台帳を整理したところ，記載の抜けや廃棄の記入漏れがあったため，改めて台帳を作り直した。

⑵ 特別教室の整備

○資料室の整理（廃棄，備品確認，管理のしやすさ）

・管理のしやすさ＝活用のしやすさ

・不足教材，新しい教材備品の確認

○パソコン室の整理（廃棄，配置，施設設備の充実）

・使用不可パソコンの廃棄，学習スペースの確保

・在外教育施設教材整備事業でノート型PCを購入，簡易無線で活用範囲を拡充

○理科室の整理（備品確認，安全管理）

・新教育課程に対応した備品，現地購入備品の確認

・実験道具の利用しやすさ，安全性に配慮した環境

○多目的室の整理（廃棄，配置）

・面積の有効活用と本来の多目的活用

○図書室の整理（利用しやすい環境）

・児童の手による集中できる環境づくり
・インターネットによる調べ学習に劣らない利用のしやすさ

５．取り組みを振り返って

(1) 成果としては，授業実践を通して課題を子どもに考え出させ，解決に向かう話し合い活動の充実が図れた。中学部45分授業を実施したことで，学習の補充，深化の時間の確保，標準時数の確保ができた。また，指導内容の精選・検討及び授業展開の工夫が図れた。さらに，改めて家庭学習の仕方を考えることができた等の成果があった。学校評価（4段階）においても，保護者3.4，児童生徒3.3～3.5を得ている。現地理解教育においては，文化交流というテーマを持つことで子どもたちに理解しやすく受け入れられ活発な取り組みとなった。保護者2.9～3.1，児童生徒2.5～2.8の評価であった。現地理解読本は子どもたちの体験活動も取り入れ情報を刷新できた。学習環境の整備においては，管理場所の環境づくりや効率的な活用など職員の意識の改善を図ることができた。保護者3.3，児童生徒3.9の評価であった。

(2) 今後の取り組みとしては，複式授業の実践研究や複式に伴う教育課程の改善の必要がある。また，現地理解教育は，交流学習や現地語会話から日亜学院の体験入学までの大きな流れを構築すること，職員間での更なる連携・協働を図ること等があげられる。